

2000年鳥取県西部地震震源域周辺の三次元速度構造

3D velocity structure in and around the source region of the 2000 Western Tottori Earthquake

前田 好晃[1], 澁谷 拓郎[2], 根岸 弘明[3]

Yoshiaki Maeda[1], Takuo Shibutani[2], Hiroaki Negishi[3]

[1] 京大・防災研, [2] 京大・防災研・地震予知, [3] 防災科研

[1] Rcep Dpri Kyoto Univ., [2] RCEP, DPRI, Kyoto Univ., [3] NIED

2000年10月6日、鳥取県西部において $M_w=6.6$, $M_j=7.3$ の地震が発生した。

定常観測により蓄積された1985年から1997年ごろまでのP波およびS波走時データを用い、Zhao et al. (1996)のトモグラフィーの手法により、2000年鳥取県西部地震の震源域周辺の三次元速度構造(V_p, V_s)を求める。その結果をもとに、今回の地震の発生過程との関係を議論する。

現在(2001年2月)、稠密余震観測(全国大学合同地震観測)でDATに収録されたデータから地震波の切り出しが行われており、それに基づいて2000年鳥取県西部地震発生後の詳細な三次元速度構造を求め、地震発生前後の比較を行う予定である。

2000年10月6日、鳥取県西部において $M_w=6.6$, $M_j=7.3$ の地震が発生した。

定常観測により蓄積された1985年から1997年ごろまでのP波およびS波走時データを用い、Zhao et al. (1996)のトモグラフィーの手法により、2000年鳥取県西部地震の震源域周辺の三次元速度構造(V_p, V_s)を求める。その結果をもとに、今回の地震の発生過程との関係を議論する。

現在(2001年2月)、稠密余震観測(全国大学合同地震観測)でDATに収録されたデータから地震波の切り出しが行われており、それに基づいて2000年鳥取県西部地震発生後の詳細な三次元速度構造を求め、地震発生前後の比較を行う予定である。